

健康診断と労働環境

フィンランド症候群

これは、フィンランド保険局が15年にわたって行った、食事・健康管理調査の結果を指し、その意味するところは、「健康習慣を生真面目に続けると短命を招く」という何とも衝撃的なものです。調査対象になったのは、40歳から45歳の上級管理職の男女600人で、皆健康に関心があり、自身の管理能力が高いとの理由で、被験者として選ばれています。調査の内容としては、彼ら全員に、定期健診と栄養学的チェックを受け、運動を行い、タバコ、アルコール、砂糖、塩分などの摂取を控えるといった健康的な生活をしてもらいました。その一方で、同じ年代で同じ職種600人の別のグループの方々に対しては、何も指示を与えず、調査票の記入だけを依頼しました。そうして15年後の調査の結果を見ると、驚くべきことに、高血圧や心臓血管の病気、死亡、自殺、いづれについても「健康を管理されていたグループ」の方が、数が多かったとのことです。この「フィンランド症候群」の一般的な解釈は、「個人の事情を無視した健康管理は、精神的に大きなストレスが加わり、それが身体に影響し、病気になるったり死を招いたりするという逆効果を生み出す」とされています。

前提が間違っています

お気付きの通り、前半の話は、何も対岸の火事などではありません。早朝出勤、深夜労働、短過ぎる睡眠時間など、私たちの労働環境は、もはや底辺と位置付けても過言ではないくらい、人間の健康状態を無視しています。会社はことあるごとに「定期健康診断」「人間ドック」は必ず受診しなさいと、まるで「社員の健康を気遣っています」かのようなアピールをしますが、こうした健診の場でなされる保健指導や助言の内容は、どれも規則的な生活を営むための基盤が担保されていることが前提のものばかりです。地盤の悪い土地には家が立たないのと同じ理屈で、いまの悪しき労働条件が改善されなければ、いくら医学的に正しい知識を持つても逆効果というものです。「もともと不規則な勤務体系だからどうにもならないだろ」と言いたい方は、労働環境が年々悪化していく事実とどう向き合うのか。これでは「健康診断」というのは、もはや「悪質な環境で社員がどれだけ持ちこたえるか」をチェックする人体実験の一環と思われても仕方ありません。

「健康なたまごは健康な親鳥から。鶏にストレスをかけない飼育システムと手間暇を惜しまず大切に育てた鶏から生まれたたまごです」
うちのたまご
(JR九州グループ)



ニワトリの環境が
うらやましい・・・



若い力

第 166 号

2022年 9月1日

発責 国労九州本部

博多区博多駅東3丁目9番3号

ニッコーハイツ1003号

JR 092-2075

NTT 092-483-1515